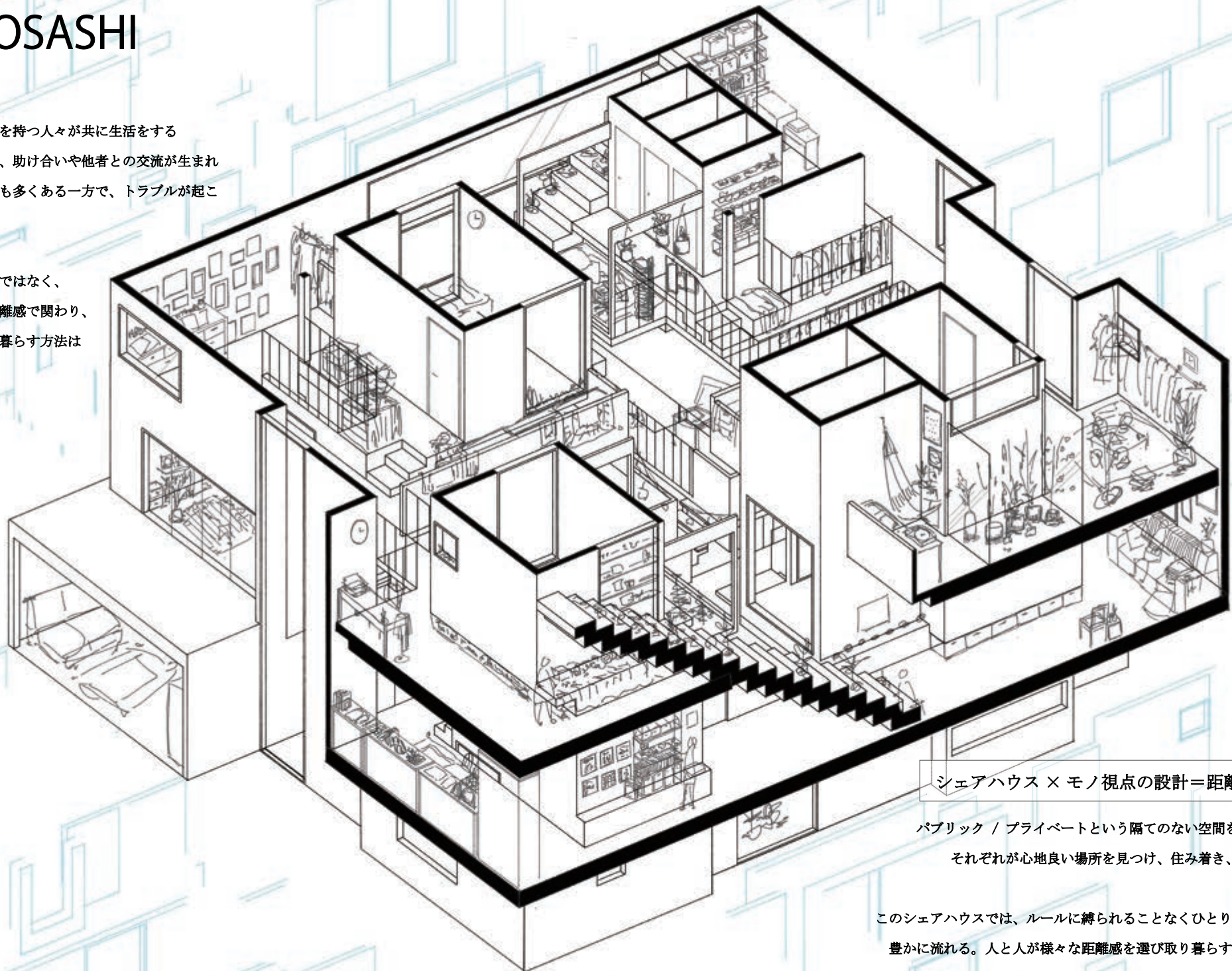


モノサシ

MONOSASHI

さまざまな価値観を持つ人々が共に生活をする
シェアハウスでは、助け合いや他者との交流が生まれるというメリットも多くある一方で、トラブルが起こることもある。

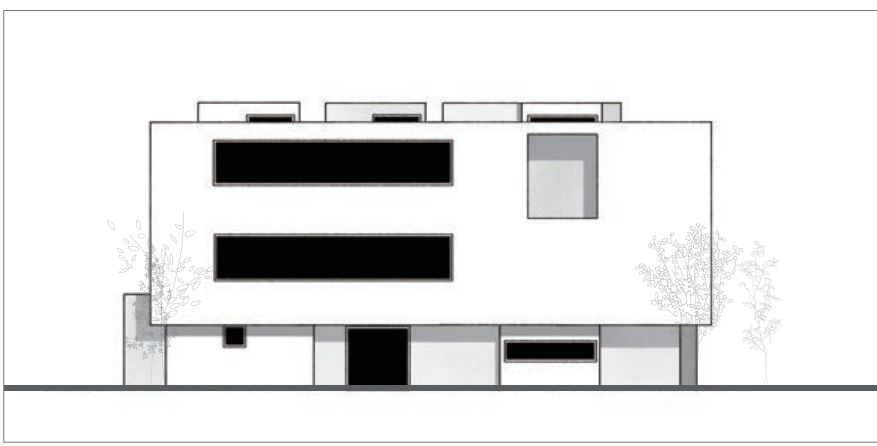
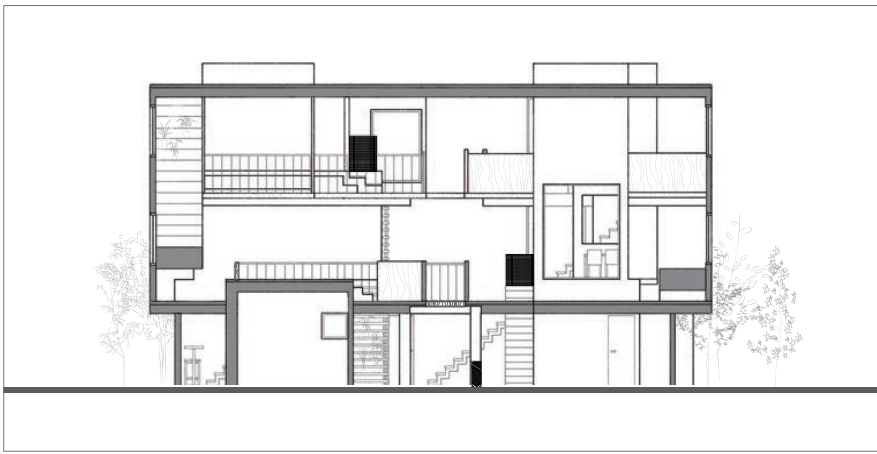
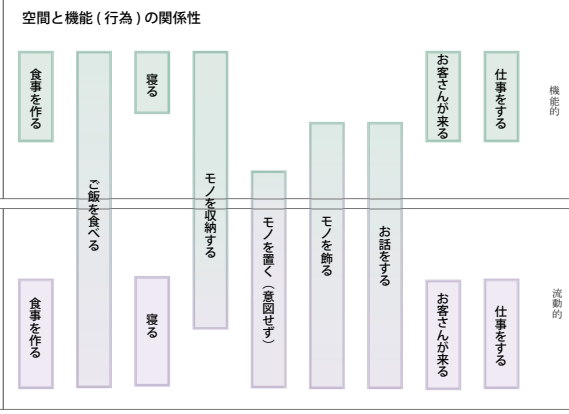
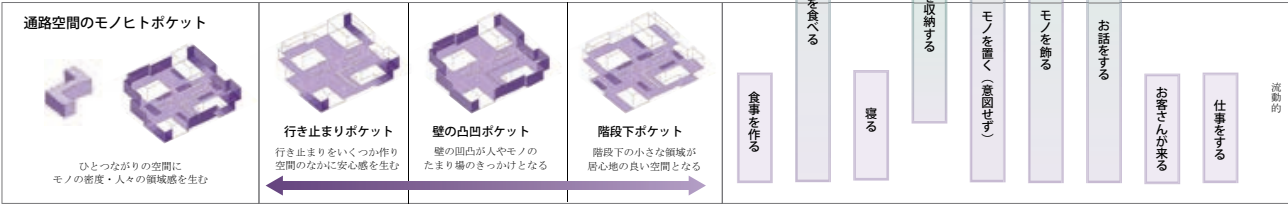
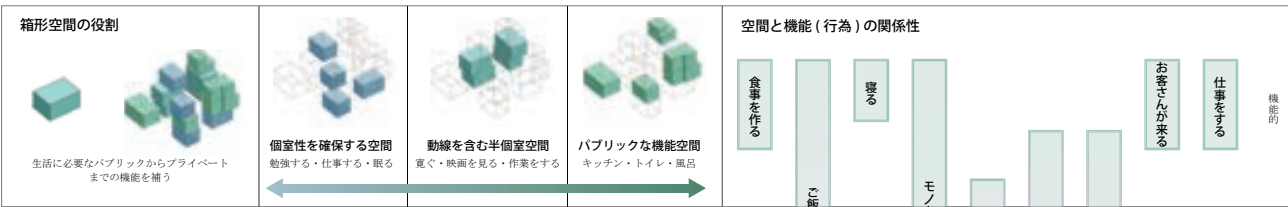
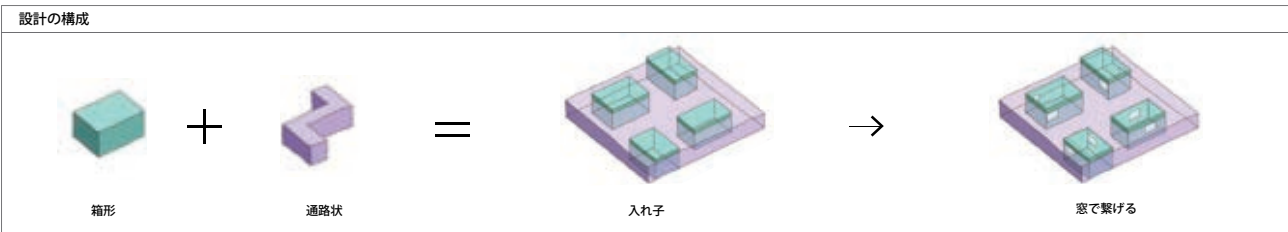
ルールを作るだけでなく、
人と人が様々な距離感で関わり、
それぞれが豊かに暮らす方法はないだろうか



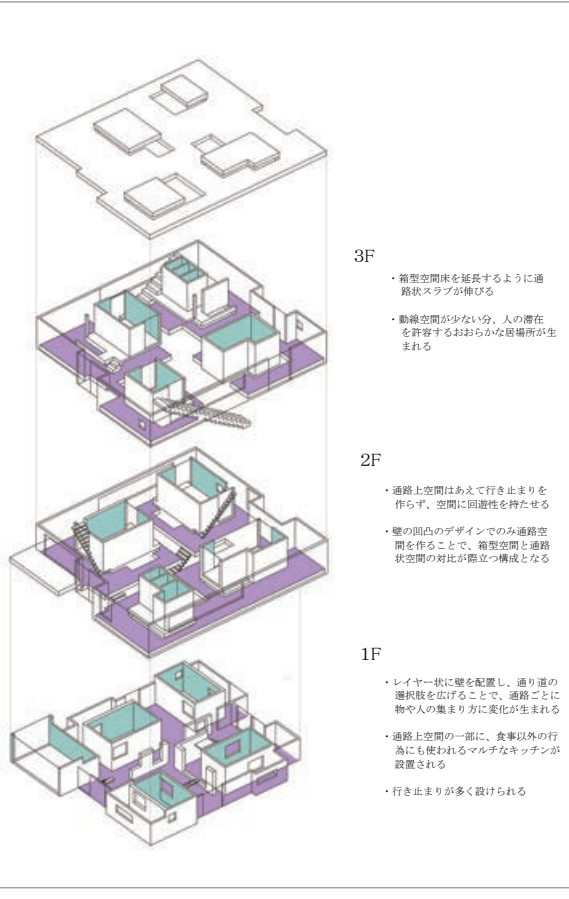
シェアハウス × モノ視点の設計 = 距離感の設計

パブリック / プライベートという隔てのない空間を横断しながら、
それぞれが心地良い場所を見つけ、住み着き、更新してゆく。

このシェアハウスでは、ルールに縛られることなくひとりひとりの時間が
豊かに流れる。人と人が様々な距離感を選び取り暮らすことが、新たな
共同生活の在り方や人々の住まい方につながる。



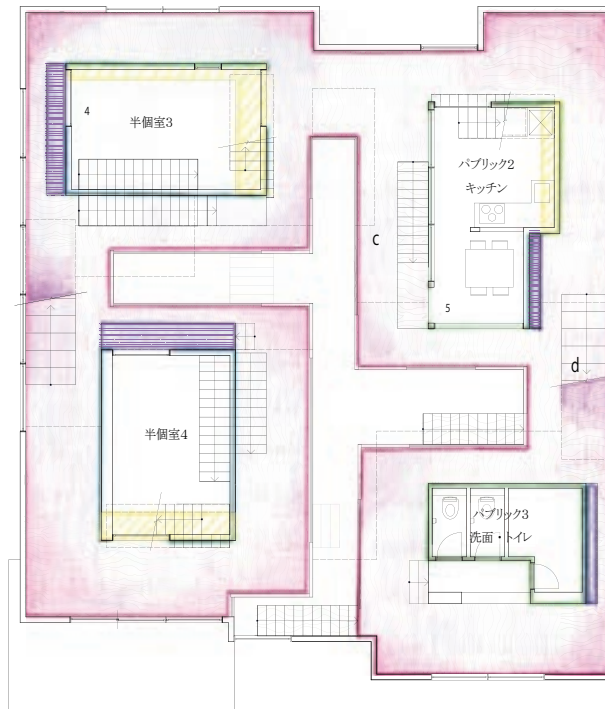
モノの手がかり	設計手法	箱型空間と通路空間の関係性
(1) 壁と窓	壁の厚さと窓の入り方でモノの置かれやすさや空間性が変化する	空間と窓のレイヤー 窓の大きさと採光、景色の関係
	<p>150mm</p>	<p>300mm</p>
(2) レベル差	箱型空間と通路空間で 600mm のレベル差を設ける	空間とモノの関係性
	<p>上下階のずれが段差となりモノの居場所をつくる</p> <p>上下階のずれが隙間となりモノの居場所をつくる</p>	<p>箱型空間にはモノが溜まりにくくなる</p> <p>壁の裏(通路側)にはモノが溜まりやすくなる</p> <p>レベル差を埋める段の隅りにはモノが集まりやすい</p>
(3) 階段の拡張	<p>手摺の機能</p> <p>モノをかけられる網目状の手摺が下へ伸び空間をゆるく仕切る</p>	<p>各部寸法の拡大</p> <p>蹴上・踏面・幅が拡大し、座る/モノを置く等の動作が可能になる</p>
	<p>横に延長</p> <p>壁を突き抜けた階段が壁の裏で違う使われ方をする(上がる/モノを置く)</p>	<p>下に延長</p> <p>床を突き抜けた階段が物置になる</p>
(4) 扉の開閉	<p>ドアの可動場所にはモノが置かれにくい</p>	<p>箱型空間に扉が開く形式をとる</p>



1F



2F



3F

